

立川女子高等学校

教員推薦図書 2025



※この冊子に掲載した図書は、学校の図書館で所蔵しています。

2025年度 教員推薦図書

も く じ

校長・教頭先生	・ ・ ・ p.3～6
国語科の先生	・ ・ ・ p.7～14
英語科の先生	・ ・ ・ p.14～17
数学の先生	・ ・ ・ p.18～20
地歴公民科の先生	・ ・ ・ p.20～24
理科の先生	・ ・ ・ p.25～26
家庭科の先生	・ ・ ・ p.26～27
保健体育科の先生	・ ・ ・ p.28～29
芸術科の先生	・ ・ ・ p.29～30
司書の先生	・ ・ ・ p.30～32
看護師さん・カウンセラーさん	・ ・ ・ p.33

今年も、たくさんの先生方にオススメの本を紹介していただきました。

普段は自分の好きな本を読んでいる皆さんに、いつもとは違ったジャンルの本を読んで欲しいという思いで毎年作成しています。

立川女子高校の皆さんなら読めると思う本を選んでいきますので、ぜひいろいろな本を手にとってみてください。

【T.S先生（国語科）推薦】

『働くわたしの仕事地図』

小林佳代子 著

ダイヤモンド社 刊

昨年も働くシリーズの本を紹介しましたが、今年も一冊ご紹介。私自身も「働く女性」の一人ですが、この10年で「働く女性」が激増！しているんですって。そしてこれからは「長く働く女性」が増えるようです。自分が自分らしく生きるために、まずは今の社会・これからの社会がどうなっていくか知ってほしいなと思います。様々なグラフやデータをもとに、人生の予習をしてみてください。

【T.S先生（国語科）推薦】

『スターバックスはなぜ値下げもテレビCMもしないのに強いブランドでいられるのか』

ジョン・ムーア 著

ディスカヴァー・トゥエンティワン 刊

ずーっと昔から、「なんでスタバって人気なんだろう？」と思っていました。私も高校生の頃からつついスタバに吸い込まれていました（あんなに高くてハイカロリーなのに…）。昨年マーケティングに興味がある生徒がいたので、こういう本もいいのかなと思い推薦します。読み終わった時には、「世界を変える志」がスタバには詰まっているということがわかるかもしれません。

【T.S先生（国語科）推薦】

『透明なルール』

佐藤いつ子 著

KADOKAWA 刊

みなさんには「自分が自分に作ってしまう、透明なルール」はありませんか？透明なルール、私も作っていたかもとハッとさせられました。自己中心になってしまうのはよくないけれど、空気を読みすぎて自分自身で透明なルールを作ってしまうのももったいない。主人公が透明なルールから一歩踏み出すお話です。もしかしたら青春時代を生きる皆さんだからこそ共感できるポイントがたくさんあるかも！？

【T.S先生（国語科）推薦】

『「好き」を言語化する技術 推しの素晴らしさを語りたいのに「やばい！」しかでてこない』

三宅香帆 著

ディスカヴァー・トゥエンティワン 刊

みなさんは何推しですか？その推しについて「やばい！」以外の言葉で説明できますか？自分の考えを人に伝えることはとっても重要！読書感想文、授業の課題、受験時のレポート、志望理由書…これからたくさんの言語化が必要になります。初めの書き出してつまづいてしまうそのあなた！その気持ちよ～くわかります。私も苦手でした。だから、是非読んでみてください。この本には、自分の気持ちを言葉にするコツがまとまっています。

【T.S先生（国語科）推薦】

『アルプス席の母』

早見和真 著

小学館 刊

甲子園を目指す我が子（まだ小学生）のために、最近スコアの書き方の勉強をはじめました。大人になって新しいことをはじめるというのはなんだかいいですね。そんな自分と重ねて読みました。野球好きの人もそうでない人も、一つのことにひたむきに頑張ることがどれだけ大切なことかわかると思います。そして、それを応援してくれる人が必ずいるということも気づかせてくれる、そんな本です。夏の甲子園がはじまるその前には是非。きっと夏休みが一味違った夏になること間違いなし！

【E.Y先生（数学科）推薦】

『哲学的な何か、あと数学とか』

飲茶 著

二見書房 刊

400年間解かれることがなかった悪魔的難問「フェルマーの最終定理」。400年間で何十人という数学者が人生をかけて証明に挑んできました。この本では、難しい数式はあまり出てこず、人生をかけて証明に挑戦した数学者たちに焦点をあてています。数学者の人生を読んで、少しでも数学に興味を持ってもらえれば幸いです。

【E.Y先生（数学科）推薦】

『争いばかりの人間たちへ ゴリラの国から』

山極寿一 著

毎日新聞出版 刊

人間の争いや暴力について考える本です。ゴリラの世界ではあまり争わず、仲間と助け合って生きています。それに比べて人間はなぜ争うのか、どうすれば平和に生きられるのかを、筆者が学んだ科学と経験が書かれています。「共に生きるとはどういうことか」を考えさせてくれます。

【T.Y先生（英語科）推薦】

『さみしい夜にはペンを持て』

古賀史健 著

ポプラ社 刊

自分の思いを言語化することは難しいことです。SNSやネットニュースで、様々な人の言葉や意見を見る機会が増えました。でも、気づいてみると自分のものではない、誰かの言葉でがんじがらめになっていませんか。「書く」ということに主眼を置いた本ですが、実際には「考える」という最も基本的で大切なことについて書かれた本です。いつでも誰とでも繋がれる世の中だからこそ、「ひとり」の時間の大切さを感じます。

【T.Y先生（英語科）推薦】

『さみしい夜のページをめくれ』

古賀史健 著

ポプラ社 刊

「本を選ぶことは、あしたの自分を選ぶこと」。みなさん、本はお好きですか？ どうして本を読むのでしょうか。どうやって本を選べばいいのでしょうか。本、そして自分の人生の選び方のヒントが隠されている本です。物語ベースで話が進んでいきますので、登場人物に共感しながら思わず一気読みしてしまいました。皆さんのお気に入りの「小説の1行目」はどれですか？

【T.Y先生（英語科）推薦】

『転がる珠玉のように』

ブレイディみかこ 著

中央公論新社 刊

「僕はイエローでホワイトでちょっとブルー」の作者によるエッセイです。「jewel（宝石）」と「gem（珠玉）」は何が違うのか。gemは、「小さいが、美しく、優れたもの」という意味があるのだそう。特別なことはなくとも、ブレイディさんの珠玉の日常に、ふっと笑わされたりほろりと泣かされたり。日本人のアイデンティティを持ちつつ、イギリスで生活する中で見えることはとても興味深いです。

【T.Y先生（英語科）推薦】

『嫌われる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え』

岸見一郎、古賀史健 著

ダイヤモンド社 刊

10年以上前にヒットした本ですが、最近アドラー心理学について学ぶ機会があり、改めて読みました。哲学者と青年が、対話の中でアドラーの教えを紐解いていきます。本当の幸せとは何か、私たちは一生をかけて学んでゆくのですが、一つの大きなヒントとなると思います。友人との関係、子育て、様々な「対人関係の悩み」を抱える私たちですが、自分や他者への見方を少し変えてみることも大切なのだと思います。

【T.Y先生（英語科）推薦】

『幸せになる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教えⅡ』

岸見一郎、古賀史健 著

ダイヤモンド社 刊

「嫌われる勇氣」の続編。前回、勇氣に満ち溢れ、納得して帰っていった青年が、3年の時を経て「アドラーはインチキだ」「アドラーを捨てる」と息巻いてやってくるころから始まります。その時点で「何があったの!？」とワクワクするのですが、割と最後の方まで疑いの目を向け続けているので笑ってしまいました。…が、なぞただけでは先人の哲学は理解しきれないこと、理屈は理解したつもりでも、それを自分のものにして実践する難しさは心から理解できます。愛」とは何か、我々が選択すべきものとは…ぜひ皆さんも哲学してみてください。

【0.M先生（国語科）推薦】

『うまいダッツ』

坂木司 著

文藝春秋 刊

高校に『喫茶部』があったら、皆さん、入部します？ 部活動が全員加入という決まりがある高校。ゆるい部活動を求めて入った高一の4名。おいしいコーヒーの入れ方を研究するという熱心な活動などせず、主人公達は、日常口にするようなスナック菓子を持ち寄って食べるだけの活動。その名も『おやつ部』。お菓子を食べながら、身の回りに起こる困った事や問題を解決していく話。

【0.M先生（国語科）推薦】

『願わくば海の底で』

額賀濤 著

東京創元社 刊

今の生活がずっと続くと思っているが、そんなことないと気づかせ、思い出させるのが3月11日。どこにでもいそうな高校生、普通に生活し、普通に生きていこうとしたただけなのに、震災で一変した。誠実であつたろうし、誠実であれと思えば思うほど、行き場をなくしていった生き残った登場人物たちの心が読んでいて痛かった。一緒に苦しくなった。でも私たちの生活は、永遠に続くものではないと改めて考えさせる本。

【0.M先生（国語科）推薦】

『藍を継ぐ海』

伊与原新 著

新潮社 刊

2025年の直木賞作品。短編が5つ入っていて、萩焼き、オオカミ、原爆、隕石、ウミガメと、全く違う物の話。どれも読み応えがあり、小説ではあるが、理系の人が書いた文章なのか、根拠があり、読んでいて楽しかった。未来へ進むために、過去を知り、現在の我々がどう生きるか、考えさせられる本かもしれない。

【0.M先生（国語科）推薦】

『禁忌の子』

山口未桜 著

東京創元社 刊

本屋大賞でノミネートされ、第三十四回鮎川哲也賞を受賞した作品。現役の医者が、出産を経て、経験を元にした推理小説。リアリティのある医療現場が舞台となっており、がっつりとした推理小説を読みたい！という人にお勧め。

【0.M先生（国語科）推薦】

『学力は「ごめんなさい」にあらわれる』

岸圭介 著

筑摩書房 刊

小学校の先生や幼児教諭になりたい人にお勧めです。勉強をしていると「わかった！」「〇点とれた！」ということのをゴールにしてしまいがちであるが、それはとても危険。「今回はこの方法で解いたけど、他にないかな？」「ここはどうして間違えたのかな？」など色々な角度から考えることが大事。そしてそれは多面的に物事を見る力につながっていく。新書ですが、各章ごとに予習・復習とまとめがあるので、とても読みやすいです。

【0.M先生（国語科）推薦】

『カフネ』

阿部暁子 著

講談社 刊

本屋大賞受賞作品。突然亡くなった弟の恋人だった女性と出会うところから話しが始まる。自分のことだって実はよくわかっていない。だから当然、他者を理解しきことは難しい。でもせっかく出会ったのだから、互いが幸せになれるよう寄り添うということは大事なのではないか、そのような気持ちを抱かせた本。社会問題にも触れながら、物語が進んで行くので、読む人によって立ち止まるところは違い、感想もそれぞれだと思いますが、読み応えのある一冊だと思います。

【O.M先生（国語科）推薦】

『藍色ちくちく 魔女の菱刺し工房』

高森美由紀 著

中央公論新社 刊

進路も決まらず、何となく日々を過ごしている女子高校生が、偶然、青森県南部地方の伝統的な刺し子、菱刺しに出会った。菱刺しを自宅で教えている、より子の工房には、色々な人が集まる。そこに集まった人たちの話が章ごとに書かれ、全てがより子の菱刺しへとつながっている。途中、涙が出てしまったり、クスッと笑ったりして、でも心がとても穏やかになるような本です。

【K.N先生（国語科）推薦】

『考えるマナー』

中央公論新社 編

中央公論新社 刊

立川女子高校のみなさんは「作法」の授業を通して、日常生活に必要なマナーを学んでいます。ただ、実際に社会に出てみると、ビジネスマナーや冠婚葬祭のマナー以外にも、場面場面に応じたマナーがたくさんあり、それらに基づいて適切な行動が求められることがあります。「こういう時、どんな風に振舞うのがスマートなのかしら？」という大人を悩ますマナーの難題に、作家や芸人総勢12人が答えてくれます。短い話がいくつも入っているので朝読書にぴったりですし、これからの実生活にもきっと役立つ1冊です

【K.N先生（国語科）推薦】

『露出する女子、覗き見る女子 SNSとアプリに現れる新階層』

三浦展、天竺邦一 著

筑摩書房 刊

X、Instagram、TikTok、YouTubeなど、みなさんは色々なSNSやアプリを使用していることと思います。そして「映え」を意識して毎日投稿に勤しむ人もいれば、自分から発信をすることは一切なく、ただ誰かの投稿を見ているだけという人もいます。この違いは一体何なのでしょう？この本によると、どういうSNS、アプリを使うかというのは、その人、特にその女性の階層意識よるところが大きいそうです。一見するとわかりづらい、現代を生きる女性の格差問題について知ることができる1冊です。

【K.N先生（国語科）推薦】

『やわらかなレタス』

江國香織 著

文藝春秋 刊

和食に中華、フランス料理にイタリア料理、スイーツからカップラーメンまで、たくさんのお料理についてとそれらにまつわるエピソードが、江國香織さんならではのやさしい筆致で書かれています。私は彼女の小説が好きで、高校生の頃夢中になって読んでいたのですが、エッセイも、（とりわけ食べ物にまつわるエッセイが）すごくいいのでみなさんにぜひ読んでもらいたいです。ただ、読むと必ずお腹がすいてくるので朝読書にはあまりおすすめできない1冊です。

【O.S先生（国語科）推薦】

『コミュニケーション力』

齋藤孝 著

岩波書店 刊

みなさんは「コミュニケーション力」と聞くとどのような力だと思いますか。誰にでも話せる力をイメージするかもしれませんが、この本によるとそれだけではないそうです。相手の話を聞く力、苦手な相手と上手に距離を置ける力、これらもコミュニケーション力だそうです。他にも載っています。コミュニケーション力って何だろう？と思った人はぜひ読んでみてください。

【O.S先生（国語科）推薦】

『感情的にならない気持ちの整理術』

和田秀樹 著

ディスカヴァー・トゥエンティワン 刊

感情のコントロール方法がたくさん載っています。落ち込みやすい人や感情に振り回されてしまう人におすすめです。

社会人向けに書かれていますが、高校生の皆さんもわかります。「会社で」の部分を「クラスで」「クラブで」に置き換えて読んでみてください。

【K.M先生（国語科）推薦】

『日本鬼文学名作選』

東雅夫 編

東京創元社 刊

鬼にまつわる話というと、何を思い浮かべますか？

この本は鬼族の王「酒吞童子」をはじめ、古今の鬼たちの世界を描いたアンソロジーです。鬼好きの皆さん、ぜひ手にとってみてください。

【K.M先生（国語科）推薦】

『藤原公任 天下無双の歌人』

小町谷照彦 著

KADOKAWA 刊

百人一首「滝の音は」でも有名な歌人。

2・3年生の皆さんは、「三船の才」でも出会っていますね。授業では語り尽くせなかった、宮廷のカリスマ・文化人としての生涯を知ることができます。

【K.M先生（国語科）推薦】

『うずまき猫のみつけかた』

村上春樹 著

新潮社 刊

2020年頃、台湾や韓国でブームになった言葉「小さいけれど確かな幸せ」＝「小確幸」はこの本から生まれた造語です。皆さんは、日々の生活の中のどのようなことに幸せを感じますか。

【F.K先生（国語科）推薦】

『すいかの匂い』

江國香織 著

新潮社 刊

大学生の頃に近代文学研究という講義があり、同じ作者の同じ作品を付箋でいっぱいになるまで何度も読み返していました。不思議なことに江國香織さんの作品はいつも新鮮な気持ちで読むことができたので、今回おすすめしたいと思います。夏にまつわる短編集です。夏休み中に読んでみてください。

【F.K先生（国語科）推薦】

『見えないときに、見る力。 視点が変わる打開の思考法』

谷川祐基 著

CEメディアハウス 刊

「数学の問題も、人間関係も論理だけではうまくいかない」という紹介文を読んで、この本を手に取りました。大阪弁で話すピタゴラスと数学講師の環太くんの会話形式で進んでいく構成になっているので、あっという間に読み終わる感覚です。個人的には「出た！悪魔の点Pや！」というフレーズがお気に入りです。

【Y.S先生（国語科）推薦】

『生の短さについて』

セネカ 著

岩波書店 刊

「財産を維持することでは吝嗇家でありながら、事、時間の消費となると、（中略）途端にこれ以上ない浪費家に豹変してしまうのである。」

この本は、今からおよそ2000年前のローマ帝国の政治家によって書かれました。ストイックの語源であるストア派の哲学者でもある彼の言葉は、心に響きます。

【N.S先生（国語科）推薦】

『メルヒェン』

ヘルマン・ヘッセ 著

新潮社 刊

題名は「メルヒェン」（童話集）ですが、単なる子供向けのお話ではありません。どの物語も、誰もが感じることのある悩みから、どのようにして救われるかが巧みに描かれています。どれか一つは、心にぴったりとはまる物語と出会えるはず。

【Y.H先生（国語科）推薦】

『わたしの旅に何をする。』

宮田珠己 著

幻冬舎 刊

本書は、旅行好きの著者が会社を辞め、様々な国をのりくりと文句を言いながら旅した時の話である。主にアジア圏での話が多く、内容自体も非常に興味深く面白い話ばかりなのだが、話し方が特に面白い。本を読んでいるというよりも面白いラジオを聞いている感覚に近い。また、短い話がいくつもあるので読みやすく、芸人のラジオみたいに面白い作品となっている。旅行が好きな人や本が苦手な人におすすめの一冊である。

【Y.H先生（国語科）推薦】

『大人の友情』

河合隼雄 著

朝日新聞出版 刊

三年生は論理国語で「文化の違い」を習いましたね。著書では文化や環境が複雑に絡みつき生まれた様々な友情の在り方を紹介しています。ボタンでは、すぐに物を返すのは失礼で、友情が確かになって簡単なことで関係が乱されなくなるまで、心の関係を保つことが重要だとされているそうです。あなたにはどんな友情の形がありますか「友情とは」を考えるきっかけとなる一冊です。

【I.S先生（国語科）推薦】

『きみの友だち』

重松清 著

新潮社 刊

各章ごとに異なる人物が主人公となり、様々な視点から「友だち」という存在について語られています。喜び、楽しさ、悲しみ、嫉妬、寂しさ、など友人関係の中で感じる思いが、登場人物の心情を通して繊細に描かれているので、共感する部分もきっと多いはずです。「ここにしかない関係をもっと大切にしたい。」そう思わせてくれる1冊です。

重松清さんの文章はとても読みやすいのでおすすめです！ぜひ読んでみてください。

【I.S先生（国語科）推薦】

『わたしの知る花』

町田そのこ 著

中央公論新社 刊

女子高生の安珠は、孤独死をしてしまった平という謎多き老人のことを調べていくうちに、彼の壮絶な人生を知ることになります。

人生はタイミングの連続。読んでいる中で何度も痛感しました。そして「まっすぐに生きてきたひとは、いつか愛される。まっすぐに誰かを求めたひとは、いつかまっすぐに求められる。背中を、追ってくれるひとが現れる。」お話のラストにも繋がっているこの言葉の意味が理解できた時、涙腺崩壊です。

【K.K先生（英語科）推薦】

『必読！必勝！受験のための「孫子の兵法」』

齋藤孝 著

PHP研究所 刊

『にほんごであそぼ』、Eテレの番組づくりに携わっている著者が『孫子』の教えを活かして受験に成功する戦略を伝授。『孫子』は勉強以外にも応用できるため、武田信玄の軍旗にあった「風林火山」やフランスの英雄とされるナポレオンやマイクロソフト創業者のビル・ゲイツなど、古今東西愛読されてきました。まずは「齋藤式いますぐ役立つポイントリスト」をチェックして、気になるところから読んでみよう。勝兵は先ず勝ちて而る後に戦いを求むもの。

【K.K先生（英語科）推薦】

『新しい学力』

齋藤孝 著

岩波書店 刊

今日、社会の変化のスピードは増えています。そのため、社会に合った「新しい学力観」を常に持つことが必要であり、それに沿った教育改革が日本では行われています。しかし、そこで求められる「真の学力」とは何であるのか、考えさせてくれる1冊です。将来、教育関係の仕事に就きたいと思っている人、なぜ勉強するのか悩んでいる人には1度は読んでおいてほしい本です。

【O.D先生（英語科）推薦】

『あやうく一生懸命生きるところだった』

ハ・ワン 著

ダイヤモンド社 刊

生と死は常に隣り合わせにある。だからこそ、人は1日1日を全力で生きていかななくてはならない。毎日しんどいと感じるとき、肩の力を抜いて1つ1つの過程を楽しむことの大切さが伝わる1冊。周囲のことばかりを気にしてしまうことも多いかもしれないが、自分と向き合うことの意味を考えることになる。

【H.S先生（英語科）推薦】

『クリスマス・キャロル』

ディケンズ 著

新潮社 刊

ディケンズが本作を完成させた頃の英国は産業革命後で、国内の貧富の差がみられると広がった時期でした。国内の環境は悪く、児童労働が当たり前の時代です。そんな中でディケンズは、どのような気持ちでスクルージの変化を描いたのか。なぜ彼はクリスマスの日を選んだのか。作品が完成した国と時代のことを考えながら、ディケンズの思いを感じ取ってみてください。

【H.S先生（英語科）推薦】

『ドリアン・グレイの肖像』

オスカー・ワイルド 著

新潮社 刊

肖像画が変化する…。裕福な生活をしている青年ドリアンの肖像画が、ドリアン自身の行いに合わせてドロドロと変化していく。変化を重ねたその肖像画は最終的に…。美しさの追求、過去の過ちとの向き合い方、自分とは何なのか。19世紀の英国で書かれた物語ですが、テーマは現代にも置き換えられる部分がありそうです。「あ、これは今でも同じことが言えるな…」という部分を、読み進めながら見つけてみてください。暗いですが良い作品です。

【H.S先生（英語科）推薦】

『ジェーン・エア』

シャーロット・ブロンテ 著

新潮社 刊

”Do you think, because I am poor, obscure, plain, and little, I am soulless and heartless?”

シャーロットが本作を発表した当時の、社会への「抗議」が詰まった作品。

ジェーンの物語というだけではなく、「当時の英国の男女の立場」「作者から社会に対する想い」を感じ取りたい作品です。男女平等が浸透した日本ですが、目に見えにくい、精神的な部分はどうでしょう…。また、物語の結末はバッドエンドではありませんが、ハッピーエンドでもありません。物語全体を、結末をどう捉えますか？

【H.S先生（英語科）推薦】

『機嫌のデザイン まわりに左右されないシンプルな考え方』

秋田道夫 著

ダイヤモンド社 刊

デザイナーである秋田道夫さんがまとめた、生きていくコツについて語られている本です。小説のように堅苦しくないし、どこから読んでも、何回読んでも良い本です。秋田さんのすてきな言葉がたくさん紹介されていて、その言葉の解説もついつい読んでしまいます。一通り読んだ後は、なんだか肩の力が抜けたような、でも身が引き締まるような、不思議な気持ちになります。一回読んでみてほしいなという本で紹介します。

【N.N先生（英語科）推薦】

『廉太郎ノオト』

谷津矢車 著

中央公論新社 刊

この本は、「花」「荒城の月」「お正月」といった名曲で知られる瀧廉太郎の青春時代を描いた作品です。明治時代、音楽を志した廉太郎は、あまりにも短い生涯の中で、音楽の才能に溢れた若者たちと切磋琢磨し、自らの生きる意味を問い続けます。誰もが、自分の生き方を模索する時期を経験します。この本の結末を通して、青春の真っ只中を生きるみなさんが、何かに夢中になる生き方の美しさを感じ取ってくれることを願っています。

【M.R先生（英語科）推薦】

『おしごとそうだんセンター』

ヨシタケシンスケ 著

集英社 刊

「そもそも仕事とは？」、「自分に向いてる仕事ってなに？」など、働くことへの疑問や不安に、分かりやすいことばとかわいらしいイラストで、読む人に向けてメッセージを送ってくれる本です。難しいことは書かれておらず、これから社会に出て働く人、実際に今働いている人へ、働くうえで大事にしたいことやヒントを与えてくれます。「めずらしいお仕事」は読んでいてクスッと笑ってしまいますよ。

【A.M先生（英語科）推薦】

『The Count of Monte Cristo』

Alexandre Dumas 著

Penguin Classics 刊

中学生の時にこの本を読んで今までも印象が残っている。
ちょっと長いけど、いろんなジャンルが入っている話です。アクション、アドベンチャー、ミステリー、ロマンス、人間関係とか。しかも、江戸時代のフランスに本当にあった事件に基づいていて勉強にもなる。私は英語で読んだけど日本語版もあるのでぜひぜひ読んでください。

【N.H先生（数学科）推薦】

『夏への扉』

ロバート・A・ハインライン 著

早川書房 刊

タイムトラベルとコールドスリープが組み合わさったSF小説ですが、こちらなんと、約70年前に書かれた作品です。読書中、少し彩度低めなフィルムで撮影された昔の映画を観ているような、不思議な心地になりました。タイムパラドクスが起きないように進む怒濤の展開と伏線回収が凄まじく、そして何より、猫がかわいかったです。

【N.H先生（数学科）推薦】

『われはロボット』

アイザック・アシモフ 著

早川書房 刊

ひとつ前の紹介本と同様にこちらも約70年前に書かれたSF小説の短編集ですが、この本のテーマはロボットSFです。コンピュータが普及する前に「ロボット工学三原則」を発案すること自体が凄いのに、その三原則の裏をついたルールを考えてそれをミステリーにすると、……と、全ての短編に圧倒されました。

【N.H先生（数学科）推薦】

『なめらかな世界と、その敵』

伴名練 著

早川書房 刊

ここまでは海外SF小説ばかり紹介していましたが、国内SF小説を一冊紹介します。こちらも短編集ですが、本格的なSFと青春が掛け合わさっていて読みやすく、それでいて作品ごとに文体が異なるという点においても非常に面白いです。個人的には、表題作である一作目の一行目で惹き込まれてしまいました。ちなみに表紙は『推しの子』等で有名な赤坂アカ先生が描かれています。

【N.H先生（数学科）推薦】

『逃亡するガール』

山内マリコ 著

U-NEXT 刊

2024年が舞台の、スタバで勉強する女子高校生が主人公の小説です。……この時点で、親近感を覚えた人もいないのではないのでしょうか。ちなみに私は本のタイトルをみて「何から逃げるのだろうか」と気になり、手に取りました。困難に立ち向かうことは大切ですが、時には逃げることで見つかる何かがあるのかもしれない、と感じさせられた一冊です。

【E.K先生（数学科）推薦】

『眠れぬ夜のご褒美』

標野凧ほか 著

ポプラ社 刊

夜食を通して描かれる人間模様が、日々の悩みや不安などに寄り添い、心を温めてくれます。物語が6つあるので、短時間で1つの物語が読めるのも魅力の1つです。

スクランブルエッグやラーメン、読んでいるととてもお腹が空いてきます、、！皆さんも、読み終えるころには、きっと何か温かいものを食べたくなっているはずです。

【E.K先生（数学科）推薦】

『思考の整理学』

外山滋比古 著

筑摩書房 刊

考える力を伸ばすヒントが詰まった本です。
知識を詰め込むだけでなく、自分の頭で考える習慣を身につけたい人におすすめです。

【K.D先生（数学科）推薦】

『アルジャーノンに花束を』

ダニエル・キイス 著

早川書房 刊

昔のSF小説ですが、高校生が読んでも面白い作品です。
これから先に現実でも起こりそうなテーマなので、ぜひ読んでみてください。

【K.T先生（地歴公民科）推薦】

『ふしぎなキリスト教』

橋爪大三郎、大澤真幸 著

講談社 刊

誰でも知っているキリスト教。でも、キリスト教って何なの？キリスト教の基礎からその社会的影響までを解説しています。どうして神が一つなの？、ユダヤ教とキリスト教はほとんど同じ？預言者とは何者？イエスは神？人間？、なぜイエスは処刑されたの？、福音書って？、奇跡は本当にあったの？カトリックとプロテスタントの違いは？など、多岐にわたるテーマを取り上げ、キリスト教が現代社会に与えた影響を探求しています。

【T.Y先生（地歴公民科）推薦】

『あきらめません！』

垣谷美雨 著

講談社 刊

定年後、東京から夫の故郷へ移住する。ゆっくり老後を過ごすはずだったのに、市議会議員・市長に立候補し当選。男性ばかりの議会を変え、市民が望む新しい行政をつくる。たった1票でも自分たちの力で政治を変えていけるということを教えてくれる1冊。

【T.Y先生（地歴公民科）推薦】

『私たちは何を捨てているのか 食品ロス、コロナ、気候変動』

井出留美 著

筑摩書房 刊

みなさんは消費期限が近くなって、値段を下げるシールの貼られた食品を買いますか？もしそれがそのまま売れなかったら、たぶん廃棄されます。そのように日本ではたくさんの食品が捨てられているのに、一方で世界には飢餓に苦しむ人がいる。とても変な話です。食品ロスが、実は様々な所にどれだけの損失を出しているのかを考えるきっかけとなれば幸いです。

【Y.T先生（地歴公民科）推薦】

『民主主義とは何か』

宇野重規 著

講談社 刊

私が学生の頃「劣化する民主主義」について論文のテーマにしたことがありました。そもそも「民主主義」って何なのでしょう。多数決のこと？みんなで話し合うこと？異質なものを排除すること？「民主主義」という言葉が入っている国もありますね。

「無関心」は「民主主義」を歪め、私たちの日常をネガティブなものに変えるでしょう。現代の「民主主義」はどこに向かっているか、考えてみませんか？

【K.Y先生（地歴公民科）推薦】

『誰が勇者を殺したか』

駄犬 著

KADOKAWA 刊

皆さんは何か継続して努力していることはありますか？「継続は力なり」という言葉があるけれど、なかなか難しいですし、やりたくないことをやり続けるのも辛いですよね。でも、主人公のアレスは周りから無理だと笑われても努力し続けます。それが無駄ではないと信じて。

勇者は魔王を倒した後、帰ってくることはありませんでした。しかし、勇者の死にはある重大な秘密が隠されています。その秘密とは…？ぜひ読んでみてください。

【K.Y先生（地歴公民科）推薦】

『三国志』

吉川英治 著

新潮社 刊

中国の三国時代、劉備は乱れた世を平定すべく、関羽・張飛と共に立ち上がります。3人が交わした「生まれた日は違っても、死ぬときは一緒だ」という桃園の誓いはとても有名です。その他にも劉備たちの人となり描かれています。人気の高い軍師・諸葛亮孔明が登場するのは5巻、映画にもなった赤壁の戦いは6巻です。巻数が多く読みごたえもあります。歴史好きの人はぜひ読んでみてください。きっと推しが見つかるはずです！

【K.H先生（地歴公民科）推薦】

『世にもあいまいなことばの秘密』

川添愛 著

筑摩書房 刊

「私には、双子の妹がいます。」

①私が双子の姉で、妹がいる。②私の妹たちが双子である。みなさんは、どちらの意味で捉えましたか？他にも、日本語は曖昧な表現が多くあります。

会話の中での言葉であれば、その場の状況から判断できるのかもしれませんが、

「そんなつもりで言ったはずじゃ無かったのに…」とならない様に気をつけなければ、と考えさせられる1冊です。

【K.H先生（地歴公民科）推薦】

『悪口ってなんだろう』

和泉悠 著

筑摩書房 刊

悪口を知らない人はいないでしょう。でも、悪口って何？と問われたら、明確に答えられる人は少ないのではないのでしょうか。「人を傷つける言葉」と定義しても、私たちの心は、悪口以外の言葉（例えば、入試の際に「残念ながら不合格です」と言われたり）でも傷つきます。

この本は、「悪口」を様々な視点から検証した本です。悪口の本質に迫って見ませんか？

【T.Y先生（地歴公民科）推薦】

『覚悟の磨き方 超訳吉田松陰』

池田貴将 編訳

サンクチュアリ出版 刊

この本は、幕末の思想家・吉田松陰の教えを現代風にアレンジして、迷いや困難を乗り越える力を与えてくれる一冊です。各章がシンプルにまとまっていて、ちょっとした隙間時間に気軽に読める内容になっていることも魅力的です。特に、「今をどう生きるべきか」「自分の中の軸をどう鍛えるか」というメッセージが強く伝わってきます。悩んだときに読むと、ハッと気づかされることが多いのではないのでしょうか。

【T.Y先生（地歴公民科）推薦】

『食欲人』

デイヴィッド・ローベンハイマー、スティーヴン・J・シンプソン 著

サンマーク出版 刊

私は、食欲旺盛で食べることが大好きなため、食べ過ぎてしまうことが悩みの種です。なぜ食欲を止めることはできないのか、この問いを解決すべく読み始めました。この本は、食欲に関する徹底した調査過程と結果が書かれています。個人的に衝撃だったのは、「たんぱく質が不足すると食欲が暴走し、これはバッタも同じである」という内容でした。食欲を楽しく学ぶことができる本です。食欲旺盛な立女生、ぜひ読んでみてください！

【H.M先生（地歴公民科）推薦】

『流星ワゴン』

重松清 著

講談社 刊

人生に絶望した主人公が、不思議なワゴンで過去を旅し、家族と向き合う物語。やり直せるとしたら何を選ぶか。後悔や希望について深く考えさせられる一冊です。

【T.I先生（地歴公民科）推薦】

『陽だまりの彼女』

越谷オサム 著

新潮社 刊

もし大切な人に秘密があったら、あなたは どう しますか？『陽だまりの彼女』は、純粋な愛と受け入れる勇気を描いた優しい物語です。ありふれた恋の物語に見えて、驚きと深い愛情が詰まった一冊です。やさしく、そしてちょっと不思議な奇跡が心を温めてくれます。最後に明かされる秘密が、すべてを優しく包み込みます。大切な人に贈りたくなる一冊です。

【T.K先生（地歴公民科）推薦】

『ゲームチェンジの世界史』

神野正史 著

日本経済新聞出版 刊

歴史は単に年号や出来事を覚えるだけのものではありません。

『ゲームチェンジの世界史』は歴史の大きな転換点を「ゲームチェンジ」として捉え、世界の流れがどう変わったのかを分かりやすく解説してくれる1冊です。なぜその出来事が重要だったのか？どのように次の時代につながったのか？そうした問いを通じて、歴史を「考える学び」として捉え直すきっかけを与えてくれます。歴史に興味がある人におすすめです！

【O.M先生（地歴公民科）推薦】

『しぐさの民俗学』

常光徹 著

KADOKAWA 刊

皆さんは「霊柩車を見たら親指を隠す」というおまじないを知っていますか？他にもどうしても勝ちたいじゃんけんの前にするあのポーズ（指と指の間からのぞくと勝ち目が見える？）とか、（この本には出てこないけど）「夜に口笛を吹くと蛇が出る」とか……私たちの生活は意外にも多くのおまじない的な「しぐさ」に囲まれています。この本は、そんな「しぐさ」に隠された意味を読み解き、日本人の精神性に迫ろうとする本です。

【M.S先生（理科）推薦】

『自律神経の科学』

鈴木郁子 著

講談社 刊

みなさん、サウナ行きますか？ サウナと聞くと、身体が”整う”とイメージされるかもしれませんが。では、身体が”整う”とは、どのようなメカニズムによって起こり、どのような効果をもたらすのか。そもそも”整う”とは何なのか。そのヒントが自律神経系にあります。そうです、生物基礎でお馴染み間脳視床下部管轄の神経系ですね。この本は、自律神経系の働きについて詳しく述べています。ぜひ、日常生活のさまざまなシーンに自律神経系が関与していることを知り、関心を深めてください。みなさん、サウナ行きましょう。

【M.T先生（理科）推薦】

『西の魔女が死んだ』

梨木香歩 著

新潮社 刊

学校に通えなくなってしまった主人公のまい。田舎で暮らす祖母のもとで1ヶ月ほど”魔女修行”をすることに…
物語で描かれる自然描写や祖母との日常にみなさんも癒されることでしょう。さらに、「幸せに生きるためには何が必要なのか」を見つめ直させてくれる作品です。

【K.S先生（理科）推薦】

『丘の上の賢人 旅屋おかえり』

原田マハ 著

集英社 刊

主人公は、依頼人に代わって旅に出るタレント「丘えりか」です。その主人公に依頼のあった行き先は北海道でした。依頼人自身に「どうしても行けない理由」と「代わりに行って欲しい理由」があることを知り、主人公自身にも北海道に行けない理由がありながらも、北海道を旅することで、様々な真実や人々の想いを知る物語です。

旅を通して、主人公にとって「ふるさと」とはどのような場所と感じるようになったのか、是非確かめてみて下さい。

【K.S先生（理科）推薦】

『ミアキス・シンフォニー』

加藤シゲアキ 著

マガジンハウス 刊

はじめから想像していなかった展開が待っており、内容に引き込まれていきます。ひとつの場面で登場する人物たちのそれぞれの思いや考えに触れることで、どんな人でも様々な過去や悩みを抱えて生きているのだと考えさせられます。自分に関わりのある家族、友人、先生などが普段どのような思いを持って自分に接しているのか、そしてその相手からの「愛」をどう受け取り、どう伝えていくべきか、考えるきっかけとなるでしょう。

【I.Y先生（理科）推薦】

『火星の人』

アンディ・ウィアー 著

早川書房 刊

「宇宙飛行士の主人公は不慮の事故によって火星に一人取り残される」「次の調査隊が来るのは4年後」「基地内の予備酸素供給機は30日で停止する」「食糧は約1年分」「太陽電池アレイが壊れた場合、電気が失われる」「無線機及びアンテナの故障によって地球との連絡手段は無し」絶望的な状況で唯一頼りになるのは、科学の知識のみ。映画『オデッセイ』の原作となった最高傑作SF小説です。

【W.Y先生（家庭科）推薦】

『被爆者からあなたに』

日本原水爆被爆者団体協議会 編

岩波書店 刊

1945年8月6日と9日に広島と長崎に原子爆弾が投下された日から80年になります。被爆した人がどんなことを抱えて生きてきたのかを生々の声で聞く機会がこの先どんどんなくなります。核戦争に「利」は何一つありません。被爆体験した私の恩師も80歳になりました。せっかく学んだ知識や技術、思考が倫理的に世の中のために尽くすためには、どういう行動とればいいの！！正義感が強い子ども時代最後年齢でぜひ真剣に考えてほしいと思いこの本を推薦しました。

【W.Y先生（家庭科）推薦】

『皇后美智子さまのうた』

安野光雅 著

朝日新聞出版 刊

ご詠進歌という美しい日本語で歌を贈ることができる機会が年に一度あります。歌会始で、一般から天皇皇后両殿下や皇族の方々に贈る歌ですが、お題を読み込んだ自作の短歌を一人一首のみを贈ります。天皇皇后両殿下や皇族の方々の美しい短歌をその機会に聞くことができます。新たな年の始まりに言葉を美しく伝えることも知ってほしいと思いこの本を推薦いたしました。この本は皇后美智子様のうたです。ぜひ生徒の皆様もご詠進歌を贈ってみてください。私も参加しています。締め切りは9月30日です。

【M.C先生（家庭科）推薦】

『さみしい夜にはペンを持て』

古賀史健 著

ポプラ社 刊

学校に居場所がなく、自分のことが大嫌いなタコジローがヤドカリおじさんと出会って人生が変わっていくお話。文章を書くことが苦手な人。今の自分を好きになれない人。自分の考えをうまく言葉にできない人。SNSに疲れた人。多くの人に読んでもらいたいです。

【M.C先生（家庭科）推薦】

『もしもカメと話せたら』

須田研司 監修

プレジデント社 刊

どんな生き物も、もとをたどれば水の中から生まれた生物です。イラっとしたらひゅぽってみよう。（ニホンイシガメ）愛嬌、最強。（ウーパールーパー）攻められる時って、成長する時。（ニホンザリガニ）など、生物の先輩であるさまざまな水辺の生き物が「周りとうまく生きるコツ」を教えてください。絵も可愛く、生物の生態も勉強でき、何よりも生物たちの教えがとても心に響きます。

【G.S先生（保健体育科）推薦】

『メンタルを強くする食習慣』

飯塚浩 著

アチーブメント出版 刊

先日、病院で血液検査をしてもらったことをきっかけに「食習慣を変えることが体の健康に繋がる！」と思い、この本を手に入れました。この本には、亜鉛、鉄、ビタミンC、ビタミンDなどが体のなかで不足するとどうなるのかという内容のほか、人間関係がうまくいかないと感じたときの対処法、真のメンタルの強さとは何かなどが書かれています。食習慣でメンタルは強くなります。この本を読み、健康な心と体を維持してほしいと思います。

【H.Y先生（保健体育科）推薦】

『とんび』

重松清 著

KADOKAWA 刊

昭和の時代、妻を亡くした男・ヤスが、ひとり息子のアキラを育てていく物語です。ぶっさらぼうだけどもっすぐな父親と、そんな父を見つめる息子の成長が、あたたかく描かれています。家族の絆や親の想いに、心がじんわりと温まる感動作です。きっと保護者の方に日々の感謝を伝えたいそんな作品です。ぜひ読んでみてください！

【S.M先生（保健体育科）推薦】

『社会人として大切なことはみんなディズニーランドで教わった』

香取貴信 著

あさ出版 刊

ディズニーのキャストから学べる社会人としての心構えを紹介した本です。当たり前だからこそ改めて学ぶことがない思いやり、責任感、チームワークの重要性を実感できる内容です。ディズニーランドでの実際のエピソードを通じて、働く姿勢や人との接し方を自然に学べるため、これからの人生に役立つヒントが得られます。将来に向けて大切な心構えを身につけるための一冊としておすすめです。

【S.M先生（保健体育科）推薦】

『「ドラえもん」に学ぶダメな人の伸ばし方』

小林奨 著

彩図社 刊

この本では、のび太くんは最初「ダメな人」として描かれますが、ドラえもんのサポートを受けて少しずつ成長していきます。失敗を恐れず挑戦し、仲間と協力することで前向きに変わる姿が描かれています。自信がなくても、焦らず自分のペースで成長していけることを教えてくれます。自分をもっと伸ばしたいと思っている人にぴったりの本です。

【S.F先生（保健体育科）推薦】

『嫌われる勇気』

岸見一郎、古賀史健 著

ダイヤモンド社 刊

生きていく上で人との関係は避けて通れないことである。その人間関係は私たちにストレスを与えることがあり上手に付き合っていかなければならない。そんな人間関係の悩みをシンプルに解決し「嫌われる勇気」を持ちながら自分らしく生きるための方法を紹介した本です！自分の人生を幸せに導くために、様々な勇気を学んでみて下さい！

【N.N先生（芸術科音楽）推薦】

『バニラな毎日』

賀十つばさ 著

幻冬舎 刊

閉店が決まった洋菓子店で店主と常連客のマダムがお菓子教室を始めることに。生徒は各回1名。参加条件は、悩みがあること。手間と時間のかかるお菓子作りを通して、自分の欠点や悩みにじっくり向き合うことの大切さを教えてくれる1冊。失敗したら、捨てずに壊せば良いのです。少しの材料とアレンジを加えれば、新たなお菓子が完成するから。求めていたものとは違うけれど、これはこれで美味しい。人生ってお菓子作りみたいだなあと感じた作品。

【N.N先生（芸術科音楽）推薦】

『アンと幸福』

坂木司 著

光文社 刊

高校卒業後からアルバイトをしていた和菓子屋さん「みつ屋」の正社員になったアンちゃん。職場は同じでも正社員になると、責任も見える景色も変わります。「わかるよ～、頑張れ!」と、アンちゃんを応援しながら読みましたが、実は私自身がアンちゃんに励まされていたのかもしれません。長年お世話になったみつ屋のスタッフとの別れや新たな出会いを通して、社会人として成長していくアンちゃん。織細男子、立花さんとの恋の行方も気になります。

【N.N先生（芸術科音楽）推薦】

『ファミリーデイズ』

瀬尾まいこ 著

集英社 刊

かつては中学校教師だった著者。人生の転機となった結婚と出産。教職時代を思い出しながら子育てに奮闘し、呑気な旦那とやんちゃな娘と過ごす、すばらしい今日。でも、明日はもっとすばらしい。娘と自分の明日が2つやってくるような気がしてワクワクするのは、皆さんと過ごす私も同じです。他作品に出てきたあの子は、もしかしたら娘さんがモデルだったのかな?と考えながら読むのも楽しい1冊。さくっと読めてクスリと笑える、子育てエッセイです。

【A.A先生（司書）推薦】

『女の国会』

新川帆立 著

幻冬舎 刊

国会のマドンナと言われた女性議員・浅沼が遺書を残して亡くなります。直前の国会で激論をかわし長年ライバル関係だった高月は、マスコミに「死んだのは高月のせい」と面白おかしく報じられます。彼女の死に納得がいかない高月が死因を探るミステリーです。女性議員、女性秘書、女性記者など、国会で働く女性目線で話が進みます。まだまだ男性優位の政治の世界。選挙や政治の駆け引き、セクハラ被害など、女性ならではの苦労も描かれています。

【A.A先生（司書）推薦】

『ハロハロ』

こまつあやこ 著

講談社 刊

母の勧めでお試しのオンライン英会話に参加したの花は、担当してくれた先生がイケメンだったので、本格的にオンライン英会話を始めることに。先生と仲良くなりたくて、先生の故郷フィリピンに興味を持ちます。ある日、フィリピン人のお母さんをもつクラスメイトの風羽ちゃんから家に招かれ料理をごちそうになり、お話をするうちに、ますますフィリピンを知ろうとします。

某コンビニのデザート「ハロハロ」はフィリピン発祥で、“ごちゃ混ぜ”の意味があるそうです。異文化を知るきっかけは日常にあふれていますね。

【A.A先生（司書）推薦】

『This is the Airport』

飛鳥井千砂 著

光文社 刊

空港を舞台に旅行者や空港で働くグランドスタッフやツアーコンダクターなどの6つの連作短編集。空港に来るのは、旅行の人だけではありません。出張に行く人、空港内の仕事で来る人、飛行機を見に来る人もいます。そんな人たちの日常が描かれています。最後のお話は、飛行機が絡むある出来事のお話で、当時のことを知っている私には、涙無しでは読めませんでした。

【A.A先生（司書）推薦】

『ショートケーキ。』

坂木司 著

文藝春秋 刊

白くて甘くてふわふわで、特別な日に食べることが多く、いつも変わらぬ味のショートケーキ。そんなショートケーキがテーマの短編集です。いろいろな人がケーキと共に思い出を作っていきます。

今では、コンビニでいつでも買えるようになったケーキですが、ショートケーキはなぜか特別な気持ちになりませんか？読んでみるとイチゴが載ったショートケーキが食べたくなります。

【A.A先生（司書）推薦】

『日本語教師、外国人に日本語を学ぶ』

北村浩子 著

小学館 刊

日本語教師の著者が、流ちょうに日本語を話す外国出身者9名に日本語をどのように学習したのかインタビューしたものが載っています。日本語学校に通った人もいれば、ひたすら耳から覚えた人、京セラの創業者・稲盛和夫の本を1年かけて読んで覚えたという人も出てきます。

覚え方は人それぞれ。皆さんは今、英語を勉強していますが、英語を恐れずに習得するコツがこの本から見えてくるのではないのでしょうか？

【A.A先生（司書）推薦】

『わたしのeyePhone』

三宮麻由子 著

早川書房 刊

著者は幼少期に目の手術をし、それ以来見えない生活をしています。そんな彼女はiPhoneの登場で生活が激変したそうです。それは、スマホの読み上げ機能等の発達により、今まで他者の助けが必要だったことが、iPhoneで解決したということです。皆さんの中にiPhoneを使っている人は多くいるでしょうか。iPhoneが視覚障がい者にどのように役立っているのか、そして視覚障がい者がどんな暮らしをしているのを知ることができます。



おまけ

教員以外からも推薦
図書が届きました！

【O.E先生（看護師）推薦】

『すばらしい人体 あなたの体をめぐる知的冒険』

山本健人 著

ダイヤモンド社 刊

「医学」と言うと、大変にむずかしく、一般人にはとても理解できないものというイメージがあるかもしれない。ところがこの本は、「肛門に近づいてきた物体が固体か液体か気体か瞬時に見分け、しかも気体である時のみ排出するという機能がある」とはじまる。Xフォロワー8万人超、外科医の著者が語る驚くべき人体のしくみ。いつのまにか人体の構造から病気、健康の常識、医学の歴史までくわしくなってしまう本。惹き込まれます。

【N.A先生（カウンセラー）推薦】

『7つの感情 知るだけでラクになる』

玉井仁 著

モラロジー道德教育財団出版部 刊

皆さんも毎日の生活をしているといろんな気持ちになる時があると思います。ポジティブな気持ちが多ければいいのですが、ネガティブな気持ちが出る時どうしたらいいか分からなくなるような気持ちが出たとき、自分の気持ちを理解したときなどに読んでみてください。わかりやすく説明してくれているので、自分の気持ちを一歩引いてみたいときにおすすめです。

【N.K先生（カウンセラー）推薦】

『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。』

Jam 著

サンクチュアリ出版 刊

友達のあの言葉や態度ってどういう意味？嫌われた？SNSチェックが欠かせない、など、相手の言動が気になる人におすすめの本です。様々なシチュエーションにおけるモヤモヤに対して、気持ちを引きずらず、心を楽しむ考え方を4コマ漫画で教えてくれます。私も読んでみてハッとさせられた1冊です。カウンセラー室にも置いてあるので、相談ついでに読んでみてください！



発行：立川女子高等学校図書館

2025年7月